

経営比較分析表（令和元年度決算）

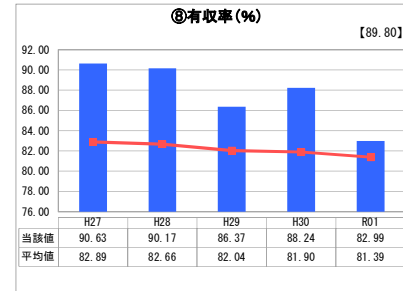
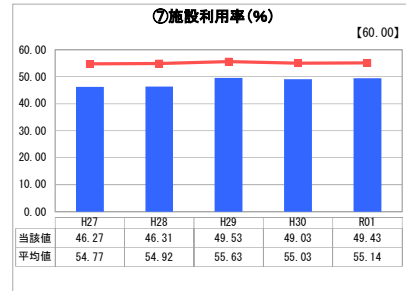
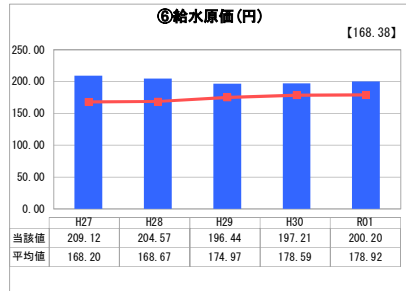
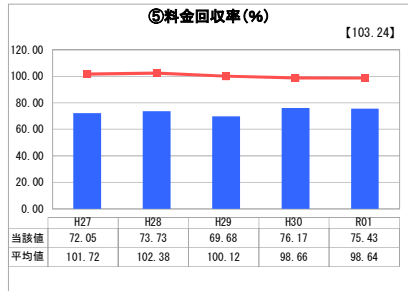
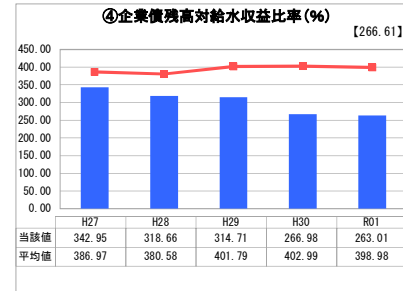
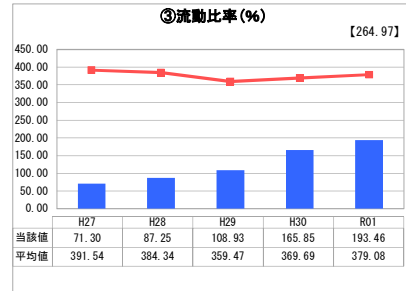
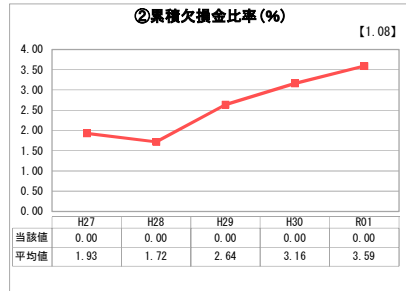
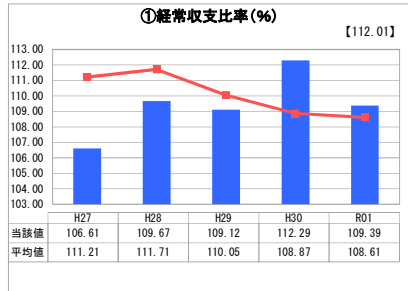
福井県 あわら市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	55.23	89.67	2,915	

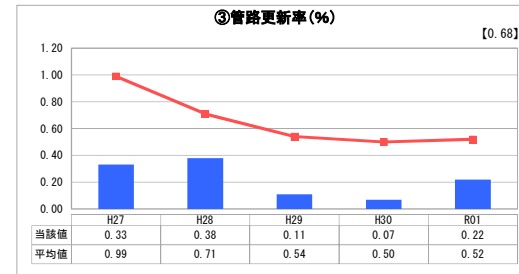
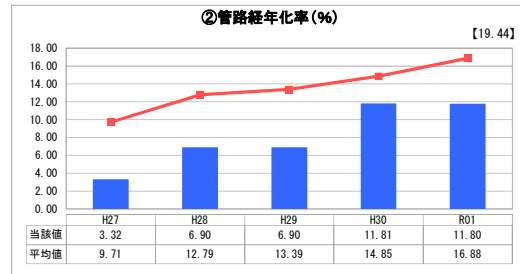
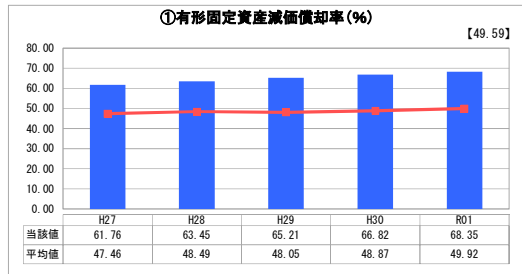
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
28,001	116.98	239.37
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
25,019	52.97	472.32

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 豪雪に伴う融雪利用の使用量増加の影響で、一時的に収益が増加した平成30年度と比較すると、経常収支比率は低下しているが、毎年一般会計から補助金の繰り入れを行うことにより、収支の均衡を図っている。
 ② 累積欠損金は発生していない。
 ③ 現金預金が増加しているため流動比率が上昇しているが、類似団体の平均と比較し低い値のため、今後も改善を継続していく必要がある。
 ④ 給水収益が減少したものの、それ以上に企業債の償還が進み企業債残高が減少したため、企業債残高対給水収益比率は微減となった。今後は老朽化した施設の更新が控えているため、増加する見込みである。
 ⑤ 料金回収率が100%を下回っており、供給単価改善のため料金改定を行う予定である。
 ⑥ 修繕費や減価償却費、資産減耗費の減少のため、費用が減少したものの、有収水量も減少したため、給水原価は増加した。給水原価が類似団体と比較し高額となっている要因は、高額な県水受水によるものである。
 ⑦ 施設利用率は横ばいで推移している。施設利用率が類似団体と比較し低い値のため、今後の更新に当たり、施設のダウンサイジングを図る必要がある。
 ⑧ 管路の老朽化に伴う漏水等が増えており、有収率が減少傾向にある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、昭和50年から60年代の水道事業拡張期に整備された資産が多いため、類似団体と比較すると高く推移している。
 ② 管路経年率は、昭和50年から60年代の水道事業拡張期に整備された管路が多いため、経年化が加速的に拡大傾向にある。
 ③ 駅前の県道工事に合わせて、管路更新を行ったため前年度と比較し更新率は改善したが、依然として更新率は低い。今後、法定耐用年数を経過する管路が加速的に増加するため更新ペースを改善していく必要がある。

全体総括

給水人口減や節水器具等の普及に伴う給水量の減少により給水収益が減少しているため、今後も今以上に経営状況の悪化が見込まれる中、老朽化施設の計画的な更新を進めなければならないため厳しい経営状況となっている。今後は、経営戦略を基に経営改善を進め、料金改定や広域化などの経営改善策に取り組みとともに、将来の投資財政計画を立てながら、計画的な施設更新を行う必要がある。